

人生100年時代の社会人基礎力について

平成30年2月

経済産業省

産業人材政策室

人生100年時代の社会人基礎力

「人生100年時代の社会人基礎力」について

- 「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006年に発表した「社会人基礎力（=3の能力/12の能力要素）」はむしろその重要性を増しており、有効。
- 一方で、「人生100年時代」ならではの切り口、視点が必要となってきた。

考え抜く力（シンキング）

課題発見力

考え抜く力、問題発見能力、システムとして物事を考える力、ソーシャルとビジネスを融合する力、見えないものが見える力

計画力

高い倫理観を持ち正しい選択をする力、詰める力、金融的投資能力、未来を予想する力

創造力

抽象思考力、価値判断力

チームで働く力（チームワーク）

発信力

(※)

協業力、ネットワーキング行動、多様な人たちの繋がり、パートナー力、相手との壁を越えて多様性を活かす対話力、人間関係資本、関係構築能力、異文化集団に飛び込み（混沌、未知、異文化を受け入れ）信頼を勝ち得る（周囲を巻き込む）力

傾聴力

柔軟性

変化に前向きに対処する力、

状況把握力

感情を学ぶ、EQ（Emotional Intelligence Quotient）、情緒的資本

規律性

シチズンシップ、高い倫理観を持ち正しい選択をする力

ストレスコントロール力

Work As Life

前に踏み出す力（アクション）

主体性

変化に前向きに対処する力、範囲を限定せずに主体的に動く力

働きかけ力

(※) 協業力、ネットワーキング行動、多様な人たちとの繋がり、パートナー力、相手との壁を越えて多様性を活かす対話力、人間関係資本、関係構築能力、異文化集団に飛び込み（混沌、未知、異文化を受け入れ）信頼を勝ち得る（周囲を巻き込む）力

実行力

詰める力、やり切る力、組織に隷属せず高い志を持ちピンで立てる力、チャレンジする力

新たな3つの視点

何を学ぶか

学び続ける力、「OS」と「アプリ」、マインドセットとキャリアオーナーシップ

どのように学ぶか

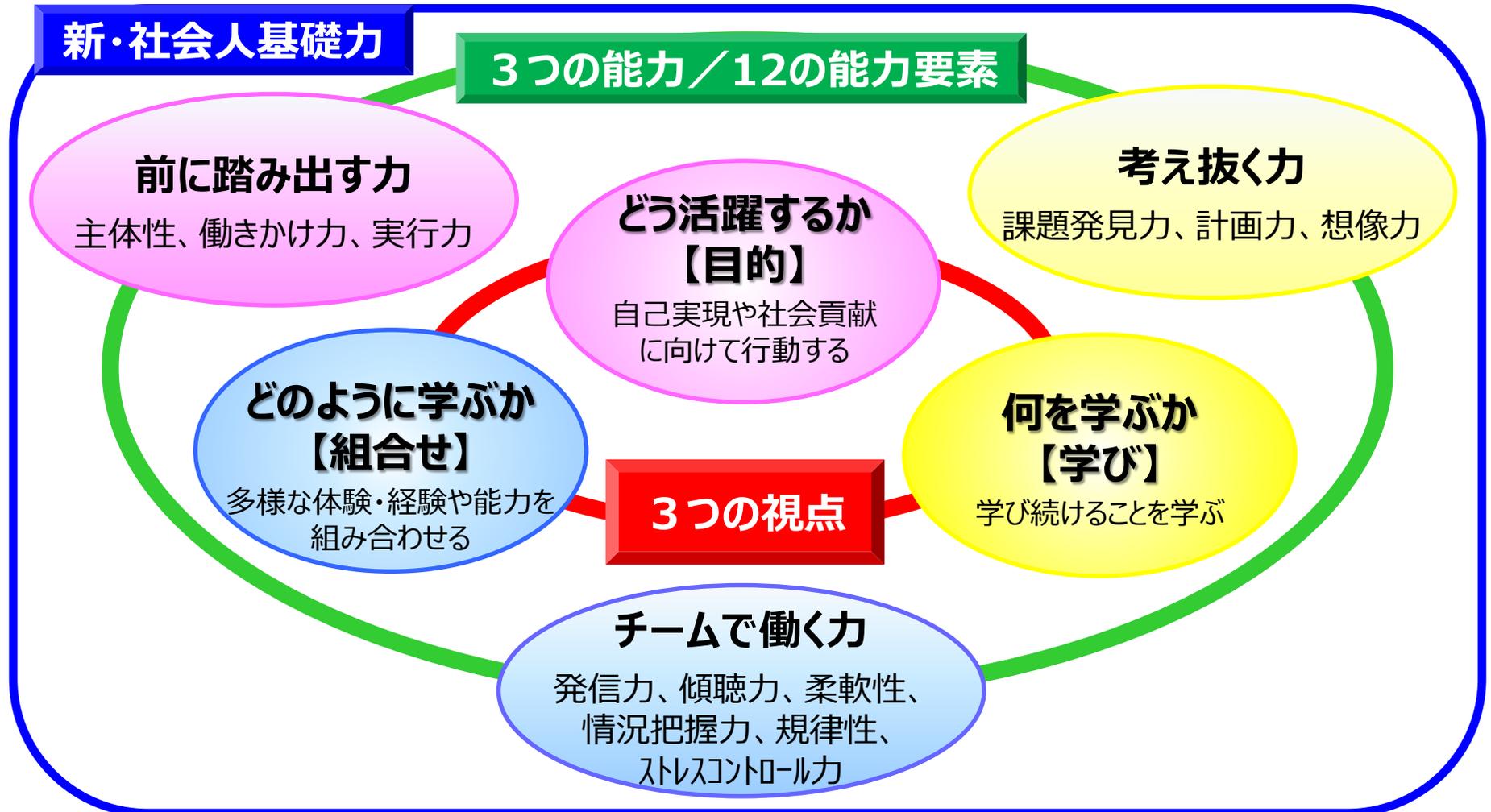
リフレクションと体験・実践、多様な能力を組み合わせる

どう活躍するか

自己実現や社会貢献に向けて、企業内外で主体的にキャリアを切りひらいていく

「人生100年時代の社会人基礎力」の見直しのイメージ

「新・社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、目的、学び、組合せのバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられる。



「個人の成長」と「企業の成長」について

- 「キャリアオーナーシップ」を持つ個人は、主体性を向上させ、自らの「持ち札」を増やすことでキャリアを切りひらいていく。一方で、企業や組織は、効果的な人材確保を通じて多様な人材が活躍する場を提供するプラットフォームとなることではじめて成長し続けることが可能になる。
- 個人の成長と企業の成長のベクトルを合わせることで、はじめて生産性の向上が実現可能に。これが「働き方改革第2章」で求められること。

個人

- キャリアの棚卸し、リフレクション
- 継続的な学び
- 体験総量を増やす
- 没頭・越境体験
- リカレント教育
- 人的ネットワークの構築

キャリアオーナーシップ
／キャリア権の確立

成長ベクトルのすり合わせ による生産性の向上

主体性・モチベーションの向上

どう
活躍するか
【目的】

どのように
学ぶか
【組合せ】

何を
学ぶか
【学び】

3つの視点

エンゲージメントの向上

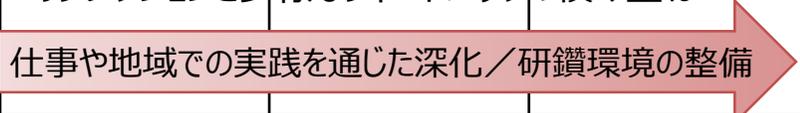
企業・組織

- 適所適材の人事配置・評価報酬システム
- 個人のキャリア自律への強力な支援・理解
- 柔軟な人事制度、人材活用方針
- オープンイノベーションのための社内外の活躍の場の提供
- 自社魅力の見える化
- タスク分解などの経営・業務改革

優秀な人材の確保
競争力の向上

「人生100年時代の社会人基礎力」の「気づき」の設定

個々人がキャリアオーナーシップにもとづき、自らが持つ・持たざる能力や体験をリフレクション（振り返り）するため、ライフステージの各段階で意識することが求められる“問い”を示すことが有用ではないか。

	就学前教育 幼稚園教育要領 保育所保育指針	初等中等教育 学習指導要領	高等教育 大学設置基準等	教育と社会との関係の接続 (これまでの重点)	新人 社会人 社会人基礎力 (2006)	中堅 社会人	中高年 社会人
何を学ぶか【学び】	<ul style="list-style-type: none"> ・学びに向かう力がついているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に自己を發揮しながら学びに向かう態度はついているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな専門分野を修めて社会で活躍するための礎とするか 		<ul style="list-style-type: none"> ・自らが付加価値を生み出すための学びはなにか ・学びの広さや深さを得らえるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・強みを伸ばし、弱みを克服する学びはなにか ・社会や技術の変化に対応するための学びはなにか 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続的に活躍し続けるために必要な学びはなにか ・経験等を引き継ぐための学びはなにか
どのように学ぶか【組合せ】	<ul style="list-style-type: none"> ・大人との触れ合いは十分か ・他者との関わりは十分か 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校種間の連携や交流は十分か ・共に尊重し合いながら協働して生活していく態度はついているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・年代、地域、文化などを超えた多様な人と関わっているか 		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人と出会い、視野を広く持ち、多様な機会を得ているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人との関係性を構築し、価値の創出に向けて組み合わせているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人との関係性を活用し、活躍の場や活動の領域をこれまでより広げているか
どう活躍するか【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活を営もうとしているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさや可能性を認識しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・得手不得手を踏まえて、企業・社会とどのように関わりたいか 		<ul style="list-style-type: none"> ・組織や家庭との関係でどんな自分でありたいか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己実現するためにどのような行動が必要か 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を踏まえ自らが社会に提供できる価値はなにか
3つの能力 12の能力要素	<p style="text-align: center;">リフレクション（振り返り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学び ・キャリア教育の充実 					<p style="text-align: center;">リフレクション（振り返り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な経験の積み重ね ・リフレクションと多様なフィードバックの積み重ね 	
	<p style="text-align: center;">教育や体験活動を通じた育成／育成の支援</p> 				<p style="text-align: center;">仕事や地域での実践を通じた深化／研鑽環境の整備</p> 		

「人生100年時代の社会人基礎力」育成の担い手

各レイヤーでの気づきに応じて、教育機関におけるプログラム開発・展開や、企業・組織による人事配置・人事施策の充実等が求められる。

能力の発揮、自己実現、生産性の向上、イノベーションの創発

伸ばす場

教育機関

- **専門職大学院**
(MBA、ロースクール等)
 - **大学院**
(修士課程、博士課程)
 - **専門職大学/短大**
※2019年度開学
 - **大学**
(学士課程等)
 - **専修学校**
(専門学校等)
 - **民間研修・教育事業者**
(e-Learningを含む)
・資格取得講座
・ITスキル習得講座
・派遣等に伴う研修
・マインドセット など
- ⇒
- ・本質を見極める
 - ・学習共同体への参加
 - ・学位取得
 - ・専門知識の更新
 - ・汎用的スキルの習得
 - ・理論的な理解
 - ・実践的知識や技能の習得
 - ・知識や技能の獲得・更新
 - ・自分の再認識

企業、組織、現場

- **OJT**
- **企業内の配置等**
海外経験や重要職務などへのアサインメント等
- **人事評価・報酬制度の設計**
職務の明確化等
- **学びへの支援**
サバティカル、学習への費用支援・理解、柔軟な勤務時間等
- **出向、社内起業**
子会社などでのマネジメント経験
資本関係のない会社での「武者修行」等
- **兼業・副業（複業）、起業、社内兼業**
越境経験、オープンイノベーション等
- **インターンシップ、海外留学・留職**
異文化体験等

キャリアの棚卸し、体験のリフレクション（振り返り）による気づき

今後の発信について

経済産業省の取組

- 大学教育を通して「社会人基礎力」を育成・評価する体系的な教育カリキュラム（企業や行政と連携して課題提供を行う「PBL(Project Based Learning)」を導入した実践型学習等）と、その取組を学内に広げる仕組を構築するモデル事業（平成19～21年度「社会人基礎力育成・評価モデル事業」）を展開。
 - 各大学において、授業実施のための講師謝金、育成・評価のための評価シートの作成、事業実施検討委員会のための会議費等に必要な予算を配分
 - モデル事業の効果検証・事業成果を踏まえた「社会人基礎力育成の手引き」を作成
- 教職員・企業人事向けにセミナーを開催（全国7ヶ所、約1,000名参加）する等、指導方法等を普及・促進
- 全国の大学が参加する「社会人基礎力育成グランプリ」を開催し（平成28年度は57大学70チームがエントリー）、PBLやインターンシップを含めた「社会人基礎力」育成のための授業の普及を図っている（平成19年度～）。

大学の取組事例

ある大学では、課題解決活動を通じて実社会で必要となる心構えや能力を身に付けるための科目を設定し、大学での学びと実社会での学びとを融合させながら、体系的な能力伸長を図り、その効果を評価する際に、「社会人基礎力」を活用している。

教育事業者の取組事例

ある民間事業者が「社会人基礎力」をベースに共同開発した大学生のジェネリックスキルの評価と育成を支援するテストは、2012年4月の実施から2016年3月末で累計約30万人が受験し、ジェネリックスキルの可視化や教育効果の検証に活用されている。

製造業の取組事例

ある製造メーカーでは、新卒採用に書類選考と面接時の評価項目に「社会人基礎力」を活用し、内定から入社2年目までの研修で「社会人基礎力」を自分の持っている力を整理する「ものさし」として活用した教育を行っている。

- 全国の大学が参加する「社会人基礎力育成グランプリ」を開催（主催：社会人基礎力協議会、共催：経済産業省）し、課題解決型授業やインターンシップを含めた「社会人基礎力」育成のための授業の普及を図っている（平成19年度～）。
- 平成28年度の社会人基礎力グランプリ（平成29年2月20日）には、57大学70チームがエントリー。

平成28年度 社会人基礎力育成グランプリ

※参加総数70チーム

【大賞（経済産業大臣賞）】

○拓殖大学

『瀬戸内海に浮かぶ、広島県呉市の三角島活性化を目的とした地方創生活動』



【準大賞】

○東北公益文科大学観光まちづくりコース

『学生が多様な地域団体と協働して取り組む「酒田おもてなし隊」の観光を切り口とした地域活性化』

○福岡大学経済学部ベンチャー起業論

『すべて天然素材を使用した今までにない健康志向チョコレートの新商品開発』

過去の受賞校一覧

回数 (開催年度)	参加校数	主催	優勝校
第1回 (H19)	7校	経済産業省 委託事業	山梨学院大学
第2回 (H20)	40校	経済産業省 委託事業	大阪工業大学
第3回 (H21)	53校	経済産業省 委託事業	流通科学大学
第4回 (H22)	100校	経済産業省 委託事業	多摩大学
第5回 (H23)	88校 (108チーム)	民間事業者	福岡女学院大学
第6回 (H24)	92校 (109チーム)	民間事業者	大阪工業大学工学部
第7回 (H25)	44校 (49チーム)	大学教職員 有志	中京大学
第8回 (H26)	42校 (50チーム)	大学教職員 有志	創価大学経済学部
第9回 (H27)	46校 (55チーム)	大学教職員 有志	大阪工業大学工学部 電気電子システム工学科

- 大学教育における「社会人基礎力」育成を推進する観点から、効果的な育成を実践する大学のグッドプラクティスを表彰し、広く情報発信を行うことを目的として、「**社会人基礎力を育成する授業30選**」を実施。180件を超える応募から30選を表彰。
- 社会人基礎力育成の取組の効果の検証や社会人基礎力の効果的な育成プロセス・手法・評価方法を再整理。

受賞授業の例

愛知学泉大学 家政学部家政学科

初年次教育として1年前期は、社会人基礎力の理解と意識付けを「管理栄養士への道」で、2年次通年で社会人基礎力を原動力とした知識・スキルの蓄積法を「栄養教育論・栄養教育論実習」で実施し、3年生で実施される臨地実習へと繋ぐ授業展開をしている。

広島経済大学 興動館教育プログラム

社会科学系の大学教育を抜本的に見直す新しい教育プログラムとして「人間力開発プログラム（興動館教育プログラム）」を全学年・全学科を対象とした横断的な正課の教育プログラムとして実施。

同志社大学 政策学部

「京都府」と連携して、京都府の政策の一つ「京都おもいやり駐車場利用証制度」を取り上げている。学生たちは、府の担当者とともに考え、解決策を検討し、実現可能性を探り、提言を行う中で、社会人として必要な視点と力を身につけていく。



実践事例集の作成



社会人基礎力を育成する授業30選受賞者

「人生100年時代の社会人基礎力」の発信のあり方（名称）

【「〇〇力」としてのネーミング】

- 社会人関係力、Work Literacy

【指針として整理】

- 行動指針

【原則として整理】

- Principle、行動原則

【社会人基礎力そのものの整理に組み込んでしまう】

- 3つの能力／12の能力要素の前提として「3つの視点」として再整理

【副題や通称】

「人生100年時代の社会人基礎力」の発信のあり方（普及方法）

- リカレント教育の推進やそのベースとなる「人生100年時代の社会人基礎力」は、大学生に限らず、幅広く国民的な議論を喚起し、整理していくことが必要。
- 「人生100年時代の社会人基礎力」を個人が自分事として捉え、意識し、行動することを目指した体験の場が必要。

ライフステージに応じた体験の場と担い手の例

	就学前	初等中等教育	高等教育	新人社会人	中堅・中高年社会人
どこで体験するか	<ul style="list-style-type: none"> • 保育園・幼稚園 • 子育て支援施設等 • 地域社会 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校 • 地域社会 	<ul style="list-style-type: none"> • 大学等 • 地域社会 • 企業・産業界 	<ul style="list-style-type: none"> • 職場 • 業界団体の集まり • 異業種勉強会 • 地域社会 	<ul style="list-style-type: none"> • 職場 • 業界団体の集まり • 異業種勉強会 • 地域社会 • 大学・大学院
どのように体験するか	<ul style="list-style-type: none"> • 園外学習 • 地域のお祭りなどのイベント 	<ul style="list-style-type: none"> • 校外学習 • 地域イベント • 学校種を超えたイベント 	<ul style="list-style-type: none"> • 学外体験 • 留学・インターンシップ • ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> • 企業や業界主催の研修 • 社外活動 	<ul style="list-style-type: none"> • 企業や業界主催の研修 • 社会活動 • 社内兼業・起業 • 兼業・副業・出向
誰が担うか	<ul style="list-style-type: none"> • 教育NPO等 • 社会福祉法人 • 教育事業者 • 地域住民 	<ul style="list-style-type: none"> • 教育NPO等 • 放課後クラブ • 教育事業者 • 地域企業 	<ul style="list-style-type: none"> • 教育NPO等 • ボランティア団体 • 教育事業者 • 研修事業者 • 企業・産業界 	<ul style="list-style-type: none"> • 企業・業界等 • 研修事業者 • 有志の集まり 	<ul style="list-style-type: none"> • 企業・業界等 • 研修事業者 • 有志の集まり • 大学等

「人生100年時代の社会人基礎力セッション（仮称）」について

- 名称：「人生100年時代の社会人基礎力」セッション（仮称）
- 日時：平成30年3月26日（月）15時00分～20時00分
（三部制（予定））
- 場所：虎ノ門ヒルズフォーラム
- 主催：経済産業省
- 定員：200名（予定）
- 内容：「人生100年時代の社会人基礎力」についての紹介トークセッション
実践のためのテーマセッション
- 申込：後日HPで御案内